

令和7年度 「自己評価」のためのチェックリスト集計結果 はずの実保育園

平成20年3月に告示された保育所保育指針において保育士等及び保育所に自己評価並びにその公表が努力義務として位置付けられました。本園では、保育士等の自己評価を厚生労働省のガイドラインに基づいて自己評価を行っております。今回2月にアンケートを行い、保育士11名、その他職員6名、合計17名が回答し集計しましたので結果を公表いたします。

A…よくできている B…できている C…努力が必要 D…該当なし

自己評価チェック内容		氏名 ()		回答			
基本項目				A	B	C	D
1	保育の基本（保育指針・教育要領）を理解している。			2	8	1	0
2	園の理念や保育目標を理解している。			4	12	0	0
3	園の全体的な計画（保育課程・教育課程）を理解している。			6	6	1	3
4	園の理念や方針に基づき、指導計画を立てている。			5	4	0	7
5	定期的に自己評価をして、保育の改善に努めている。			2	8	3	3
6	保育の計画や実践に向けて、創意工夫に努めている。			1	8	2	4
7	自分の保育のよさと課題を認識している。			0	11	2	3
8	すぐにでも取り組まないといけない課題の改善に努力した。 課題の内容を記入してください。「 」			0	5	2	7
9	園の会議などで子どもの利益を一番に考えて発言している。			4	7	1	4
10	業務上知り得た個人情報などの秘密を守っている。			11	4	0	1
子どもとの関わり 「生命の保持・心の安定」							
1	ひとりひとりの発達を理解して接している。			6	9	0	2
2	ひとりひとりの生理的欲求が満たされるように配慮している。			5	7	1	3
3	登園時にやさしく声をかけるなど、状況に応じて対応している。			8	6	0	1
4	わかりやすい言葉でおだやかに話しかけている。			7	7	0	1
5	子どもが何を求めているのか、常に配慮して接している。			5	7	1	3
6	子どもの言葉にならない思いやサインなどの心の動きを理解するよう努めている。			7	4	1	3
7	制止やせかす言葉を不必要に使わず、ひとりひとりに合わせた対応をしている。			3	7	3	2
8	「あとで」などと待たせず、なるべくその場で対応している。			2	9	3	2
「健康・安全」							
1	食事や排泄などの生活に必要な活動に自ら取り組むように配慮している。			8	5	0	3
2	食事やおやつを楽しめる雰囲気作りをしている。			8	5	0	3
3	子どもが育てた物を食事やおやつに出し一緒に食べるなど、食育に心がけている。			9	5	0	1
4	偏食や食べ残しを直すために過度に叱らないように配慮している。			4	9	0	3
5	トイレの後や食前の手洗いなど、清潔にする習慣が身につくよう働きかけている。			8	5	0	2
6	体を動かすことを楽しむように働きかけている。			7	4	1	3
7	危険を意識して行動するよう、安全について指導をしている。			7	4	1	3

「人とのかかわり」		A	B	C	D
1	友達とのかかわりで、友達の良さや大切さに気づくようにしている。	7	6	0	3
2	子ども同士が互いの気持ちを受け入れられるように配慮している	6	6	0	3
3	順番を守るなどのルールが身につくように配慮している。	8	4	0	3
4	活動を通して、共用の道具や遊具を大事にすることを体験できるようにしている。	7	5	0	3
5	人と心が通じ合う喜びを伝えるように接している。	7	6	0	3
6	異年齢の子どもとかかわることを大切にしている。	9	3	0	3
7	外国の人や文化の違う人に親しみをもつ機会をつくっている。	2	1	7	5
8	地域の人や高齢者と親しむ機会を作っている。	0	7	4	4
9	地域の施設や地域人材を活用している。	2	6	1	3
10	家族の愛情に気付き、家族を大切にしようとする気持ちを育てている。	5	6	1	3
「表現活動」					
1	美しいものに感動したり、イメージを広げたりする機会を作っている。	6	5	1	3
2	感じたことや考えたことを自由に表現する機会をつくっている。	6	6	0	3
3	子どもが自由に歌ったり、踊ったりすることを楽しめるようにしている。	6	6	0	3
4	さまざまな素材や用具と接し、自分で工夫して遊べるようにしている。	5	6	1	3
5	子どもの作品を大事に扱い、工夫して飾るなどしている。	6	6	0	3
「言葉」					
1	心のこもったあいさつをしている。	11	5	0	0
2	正しく、丁寧な言葉がけをしている。	5	11	0	0
3	「ありがとう」や「ごめんなさい」などの言葉を相手の気持ちや本児の気持ちを大切に指し導している。	8	6	0	2
4	わからないことを子どもが聞けるなど、安心して話ができる雰囲気を作っている。	5	8	0	3
5	子どもが人前で話をするとき、相手にわかりやすくはなせるように、援助している。	5	7	1	3
6	絵本や物語などは、子どもの発達や興味・関心に即したものを提供している。	4	9	0	3
7	ごっこ遊びなど楽しい雰囲気の中、言葉のやりとりができるように子ども同士の仲立ちを行っている。	6	7	0	3
保育環境 「環境づくり～心地よい生活の場」					
1	ひとりひとりが安心して過ごせる環境づくりを心がけている。	4	9	0	3
2	自然とのふれあいを大切に心が豊かになるよう配慮している。	3	9	0	3
3	四季に応じて、保育室の環境を整えている。	2	7	3	4
4	保育室の温度や湿度、換気に配慮している。	4	8	0	3
5	適切な声の大きさに接している。	4	10	0	2
6	子どもが不安になったり、話しかけてきたりしたときに応じられるようにしている。	7	7	0	2
7	トイレや手洗い場を清潔に保っている。	6	6	1	3
8	遊具・おもちゃ、砂場などの点検や消毒を定期的に行っている。	5	8	0	3
9	施錠・来園者確認・職員間の情報共有を行い、不審者の侵入防止に努めている。	4	9	1	2

「環境づくり～成長を促す」		A	B	C	D
1	発達に合ったおもちゃや活動、遊びの環境を用意している。	5	7	1	3
2	子どもの導線を考えて、活動や用具を配慮している。	4	8	1	3
3	子どもが動植物にふれあう機会をつくっている。	2	6	4	3
4	ひとりひとりの興味に合わせて、好きな遊びができるようにしている。	3	10	0	3
5	園外保育で、地域に興味をもてるようにしている。	2	9	1	3
6	伝統的な行事を生活の中に取り入れている。	2	9	1	3
7	日常的な生活や環境のなかで標識や文字に関心をもつ工夫をしている。	3	6	3	3
保護者のかかわり 「情報の発信と受信」					
1	保育の方針や内容を保護者にわかりやすく説明している。	2	8	1	4
2	個々の家庭の養育方針を理解している。	1	6	5	3
3	送迎時や連絡帳などでの日常的な情報のやりとりを大切にしている。	3	7	1	3
4	連絡帳やコドモンでの活動の配信や園だよりは、保護者がその内容をよく理解でき、楽しみにするような書き方をしている。	2	7	1	5
5	必要に応じて保護者の個別面談を行っている。	4	6	0	5
6	緊急時は電話などで、迅速な連絡を行っている。	9	3	0	3
「支援」					
1	家庭と協力して、子どもが健康的な生活リズムを身につけられるようにしている。	5	6	0	4
2	子どもの育ちの過程を伝え合い、共通理解に努めている。	6	6	0	3
3	悩みや不安を話せるように心を開いて対応している。	4	7	0	3
4	保護者の保育参観など子育てについて共通理解を得るための声掛けや活動内容を工夫している。	4	7	0	4
「マナー」					
1	すべての保護者に対して、親しみを込めた挨拶や会話を心がけている。	8	7	0	0
2	丁寧な言葉や敬語を使っている。	7	7	0	0
3	子どもの体調不良などの連絡時の伝達方法に配慮している。	8	5	0	2
4	苦情や要望には、謙虚に話を聞いて対応している。	3	9	0	3
5	子どもの名前を尊重し、あだ名ではなく正しい呼び名で呼ぶよう心掛けている。	1	11	2	1
ほかの保育者とのかかわり 「良好な関係と協働性」					
1	園長や副園長、主任保育士、同僚を尊重し、良好な関係を築いている。	6	9	0	1
2	園長や副園長、主任保育士、同僚の言葉を素直な気持ちで受け入れている。	6	9	0	1
3	報告や連絡、相談をするように心がけている。	6	9	0	1
4	自分が休んだ日の出来事や連絡・注意事項は、自ら尋ねて理解するなど、職員間の連携に努めている。	5	10	0	1
5	園が目指す目標に向けて互いに協力している。	3	12	0	1
「保育者としての資質向上」					
1	職員間で保育内容の対話を重ねている。	5	7	1	3
2	自分の職務のふりかえり、問題点や課題を見つけることができている。	4	8	2	2
3	悩みや疑問を解決するために、研究・専門書を見つけて、そこから学ぶことができている。	2	9	4	1

		A	B	C	D
4	研修で得た内容、成果は園の職員にわかるように丁寧に説明し、意見交換をするために役立っている。	3	6	2	4
5	研修に進んで参加をし、知識や技術の習得を図っている。	3	5	5	1
6	国や自治体の公刊物、ニュースやインターネットなどで、保育関係の情報を日頃から収集するように心がけている。	4	7	2	2
「乳児保育を担当している方」					
1	乳児期にふさわしい安全で衛生的な環境を心がけている。	3	4	0	6
2	食事（授乳）はゆったりと行っている。	2	5	0	6
3	ひとりひとりの育ちに合わせ、家庭と連携しながら食事を進めている	4	2	0	6
4	ひとりひとりの生活リズムに合わせて睡眠がとれる場所や時間を設けている。	5	2	0	6
5	仰向けに寝かせるなど、乳幼児突然死症候群（SIDS）に配慮した保育を行っている。	4	4	0	5
6	おむつ交換は声をかけ、スキンシップを大切にしながら行っている。	4	4	0	5
7	たて抱きや腹ばいなど様々な姿勢がとれるように配慮している。	5	2	0	6
8	しぐさや声を介し、欲求を察知してタイミングよく対応している。	5	2	0	6
9	喃語にはやさしくこたえるようにしている。	5	4	0	4
10	やりとりやふれあいあそびを大切にしている。	5	3	0	5
「特別な配慮や支援を必要とする子どもの保育」					
1	特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性に配慮した個別の計画を作成し、保育を行っている。	2	3	1	9
2	特別な配慮や支援を必要とする子どもとない子どもが互いに認め合い、ともに成長できるように配慮している。	3	6	0	6
3	特別な配慮や支援を必要とする子どもを持つ保護者の気持ちを受け止め、話をする機会などを設け、支援している。	2	4	1	8
4	医療機関や地域の専門機関と連携し、必要に応じて助言を受けている。	3	5	1	6
5	特別な配慮や支援を必要とする子どもの保育の研修などに進んで参加している。	4	2	6	3
「病児保育を担当している方」					
1	子どもの疾病や症状に応じて快適な生活が提供できるように努めている。	0	1	0	10
2	感染症やその他の疾病の発症予防に努め、看護師の専門性を生かした対応を図っている。	0	1	0	10
3	流行している感染症や流行しやすい病気について、情報収集を行い、子どもや保護者、職員に情報の発信をしている。	0	1	0	10
4	病児対応後の子どもと保護者へのアフターケアを行っている。	0	1	0	10
「調理を担当している方」					
1	子どもの食事の状況を把握している。	2	2	0	7
2	保育内容を考慮した上で献立作成や食事の提供を行っている。	1	2	0	8
3	年齢や個人差に応じた食事の提供をしている。	2	2	0	7
4	喫食状況、残食などの評価をふまえて調理を工夫している。	1	3	0	7

		A	B	C	D
5	特別な配慮が必要な子ども（アレルギーなど）の状況に合わせた食事を提供している。	3	1	0	7
6	子どもが食事をする場所は、衛生的に管理されている。	2	2	0	6
7	衛生的な食事の提供を行っている。	2	2	0	6
8	乳幼児期の「食」の大切さを、献立表などを通じて保護者へ知らせている。	0	1	0	9
9	行事食を通じて、季節を感じたり、季節の食材を知らせている。	0	2	0	8
「保健活動・安全管理」					
1	ひとりひとりの体調をしっかり把握し食事の量や内容を変えるなどの配慮をしている。	7	5	0	4
2	備品棚や物の転倒防止、その他事故が起こらないように、保育室内外の安全な環境作りの努力をしている。	4	8	0	3
3	園庭にガラスの破片など危険なものがないか調べたり、砂場を掘り起こして整えるなど、安全な環境作りの努力をしている。	8	4	0	3
4	地震等の災害や火災に備え、積極的避難訓練に参加し、非常災害時に自分が何をしなければならないか理解している。	8	5	1	2
園に関すること					
1	日頃から感染症対策を意識して行っている。	10	7	0	0
2	定期的に健康診断・予防接種などをうけ、自分の健康管理に努めている。	9	8	0	0
3	提出物の提出は期日を守っている。	7	8	1	0
4	園の備品を大事に使ったり、壊れたり紛失したら報告している。	9	8	0	0
5	省エネを心掛け、電気、水道等の節約に努めている。	6	11	0	0
6	朝、出勤したらお内仏（御仏様）にお参りしている。	10	4	0	0
7	お寺の法要や同朋会など、自分を見つめなおすための時間に積極的に参加している。	5	3	10	0
8	園外でも「はすの実保育園の職員」という意識をもって過ごしている。	9	8	0	0
9	本園がお寺の保育園だということを十分理解した上で、いつも、御仏さまを意識して子どもと一緒に過ごしている。	9	8	0	0
10	あなたにとって理想的な園はどのような園ですか？				
11	理想的な園になるためには、どのようなものが今の園に足りないと思いますか？				

総評

保育士、保育関係者の自己評価として全体的にみれば「ほぼできている」という評価になりました。しかし、反省・改善点も感じており、見えてきた課題を職員間で話し合い、次年度の活動で取り入れたり、積極的に研修に参加するなど、保育の向上に繋げていくようにします。

保護者と協力して保育が行えるよう必要に応じて個人での面談を行いました。少しでも子ども達の困り感を減らし、安心して生活できるよう臨床心理士や保健師等の専門家とも連携して保育の質を高める努力をおこなってまいりました。

また今年度も周辺では様々な感染症が流行し、行事前には登園でも感染症が流行しましたが、園内研修を通して看護師を中心に対応を確認し、職員全体で感染症対策に取り組むことが出来ました。園だよりやコードモン等で保健衛生に関する情報や、お知らせなど、保護者に配信する機会も増えましたので、今後も最新の情報に関心を持ち、伝えていきたいと思えます。園児の健康状態の把握や体調不良児の対応、園内の感染症流行予防という点から考えると、近隣の保育施設と比べ感染症の大きな流行もなく、ある程度評価できると思えます。

これからも、職員の連携を密にし、子どもの主体性を第一にした保育、食育活動を行い、関係機関や地域の方との関わりを深め、保育を行ってまいりたいと思えます。

